

市立長浜病院 地域医療連携だより

令和4年4月1日号 No.205

理念
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大成亥町 313 番地
TEL : 0749-65-2720
FAX : 0749-65-2730
<http://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院
周産期協力病院
地域医療支援病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。4月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

令和4年度のはじめにあたり

院長 高折 恭一

湖北地域医療機関の皆さまには、日頃から市立長浜病院の運営にご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。

地域の皆さまとの連携を深めることにより、地域医療支援病院の役割をしっかりと果たして行きたいと存じます。

また、当院は「地域がん診療連携拠点病院」でもありますので、湖北地域で最先端のがん診療と、地域完結型の高度医療を提供する使命があります。

地域の先生方から多くの患者さんをご紹介いただき、おかげさまで、院内は活気に溢れております。

優秀なスタッフが集まってきてくれており、本年4月の常勤医師数は100名を超えました。特に、腎臓代謝内科、糖尿病内科、呼吸器内科、呼吸器外科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、外科、消化器内科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リウマチ・膠原病内科では、充実した診療体制を整えております。

施設面でも、昨年度は40億円以上の費用をかけた大規模病棟改修工事等が竣工し、アメニティーとプライバシーを重視した病棟へとリフォームが完了いたしました。院内随所に無料Wi-Fiアクセスポイントを設置する工事を進め、さらに快適に過ごしていただけるように努めています。

放射線治療装置も更新を予定しており、県内で数少ない施設基準を満たした病院の一つとして、前立腺癌・肺癌・膵癌などに対する強度変調放射線治療(IMRT)を含む高精度放射線治療を実施していますが、今年度後半は最新型リニアックの設置工事を行うこととなります。

本年度から、森田善方責任部長（腎臓代謝内科）が患者総合支援センター長に就任し、新しい体制で、地域の皆様との連携をさらに推進していきたいと考えています。

小職は、このたび長浜市病院事業管理者を拝命しましたので、長浜病院と湖北病院が一体となって、地域の皆様のお役に立てるように尽力していく所存です。

今後とも、ご支援ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



基本方針

1. 患者の権利、尊厳を重視した医療を実践します。
2. 地域の医療関係者との連携を深め、地域医療の発展のためにつくします。
3. 高度で良質な医療水準を確保し、安全で信頼される医療を進めます。
4. 快適な療養環境の整備と、質の高いケアに務めます。
5. 医学研究活動を推進し、優れた医療人を育成します。
6. 職員が互いに尊重、協力してチーム医療を実現します。
7. 職員が元気で働きがいのある職場づくりに務めます。

医師の異動（4月）

■着任（令和4年4月1日付）

循環器内科部長	東谷 典史	麻酔科	森山 凌
外科部長	横山 大受	消化器内科	斉藤 聖弘
外科部長	大島 侑	臨床研修医	市原 豪
消化器内科医長	平山 尚史	臨床研修医	中田 啓弥
救急科医長	陌間 大輔	臨床研修医	初村 拓毅
整形外科副医長	米田 義崇	臨床研修医	深野 毅雄
麻酔科副医長	竹内 慎弥	臨床研修医	山崎 一輝
脳神経外科	光野 優人	臨床研修医	渡邊 重之
腎臓代謝内科	丹波 佑斗	臨床研修医	佐々木 暁香
眼科	堤 啓志郎		

■退職（令和4年3月31日付）

消化器内科責任部長	西田 淳史	呼吸器内科	伊藤 高範
外科責任部長	川島 和彦	循環器内科	森永 晃史
小児科責任部長	池田 優	麻酔科	河野 匡暁
消化器内科部長	西野 恭平	脳神経外科	濱本 諒
外科部長	吉野 健史	臨床研修医	北脇 大督
腎臓代謝内科副医長	藤野 隆弘	臨床研修医	織田 裕敏
歯科・口腔外科副医長	佐藤 舞	臨床研修医	澤田 克也
腎臓代謝内科	横江 遼一	臨床研修医	北條 貴広
麻酔科	佐々木 一真		

4月より、産前産後ケアステーション「にじいろ」が開設

助産師 梅本 範子

市立長浜病院、産前産後ケアステーション「にじいろ」は、安心して子育てのできるまちづくりを目指して活動を行います。

近年、核家族で働きながら夫婦で妊娠・出産・子育てを行うという社会情勢、また、コロナ禍において、孤立化している妊産婦とその家族【主にパートナー】に視点を向け、妊娠・出産・育児の教室を開催し、産後の不安などを軽減することと産後ケア事業（宿泊型・ディサービス型・アウトリーチ型）に結びつけていくことで、産前から産後まで継続性のある支援を行います。また、教育の現場では、幼児期から性に関する教育を進め、子供自身が拒否できる、性暴力から逃げる文化を作っていくため、長浜市内の保育施設等の依頼を受け性教育を始めます。

このように、地域住民のいのち・暮らしをまもり支える予防的視点に立ち、その人らしく幸せに暮らせることを支援して行くための拠点づくりをしていきたいと考えています。

令和4年度患者総合支援センターの体制について

